

○平成24年産夏秋野菜の需給・価格の見通しについて

資料3-2

夏秋キャベツ(7~10月)

主産地の動向等

(主な産地: 群馬、長野、北海道)

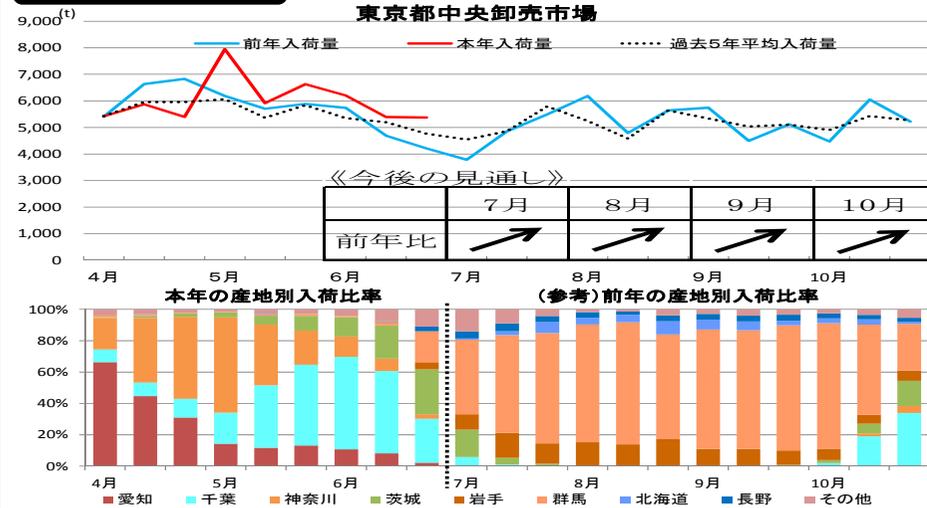
1 作付面積は、群馬、長野、北海道ともに前年比100%。

生育状況は、群馬は、生育初期の低温の影響で遅れが見られたものの、5月以降は回復し、作柄は良好。長野は、入梅以降、比較的冷涼な気候で推移しており、作柄は良好。北海道は、融雪が遅れ、低温等により定植作業が遅れたが、定植後は比較的天候に恵まれたことから、概ね平年並みとなり、順調に生育。

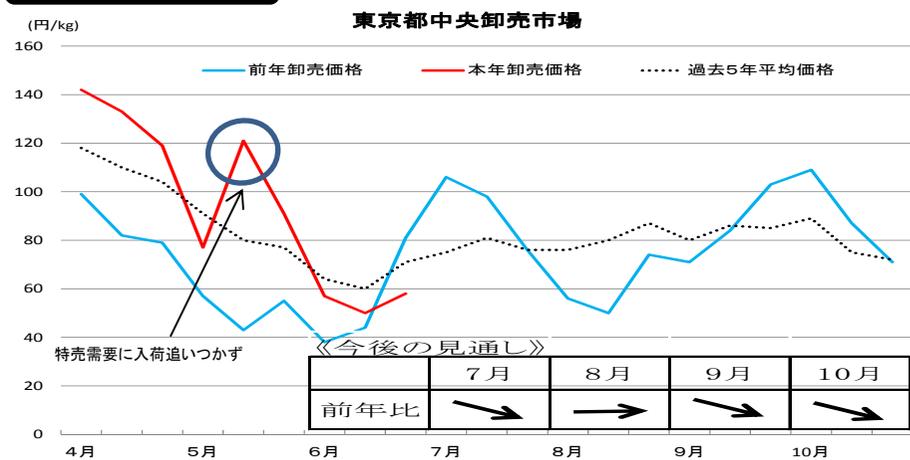
出荷開始は、群馬は6月上旬、長野は6月中旬、北海道は7月上旬。

2 この先1か月の気象予報は、平均気温は平年より低く、降水量は平年並み、日照時間は平年並みの見込み。

入荷量の推移等



価格の推移等



野菜需給・価格情報委員会での需給・価格の見通し

1 供給見通し

作付面積は、群馬、長野、北海道ともに前年並みの見込み。

生育状況は、生育初期に低温の影響により、生育の遅れが見られたもの、その後は、生育が回復し、作柄は良好。

出荷量は、期間を通して、前年及び平年を上回る見込み。

2 需要・価格見通し

期間を通して順調な出荷が見込まれ、かつ、8月上旬までは、関東近在産地の出荷が続くことから、価格は、7月以降概ね平年を下回って推移する見込み。

ただし、8月下旬以降、台風や長雨等の影響によりレタス相場が上昇すると、代替需要によりキャベツの需要が増加し、価格は上昇する可能性がある。

夏だいこん(7~9月)

主産地の動向等

(主な産地:北海道、青森、岐阜)

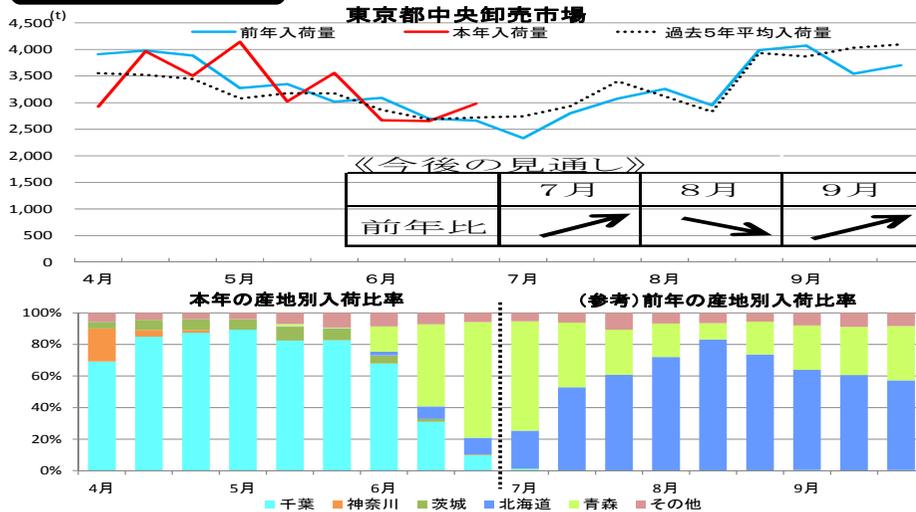
1 作付面積は、北海道は前年比98%、青森は同98%、岐阜は同95%。

生育状況は、北海道は、融雪の遅れ、降雨等による播種の遅れや主産地での干ばつ等により、総じて3~5日の遅れとなっている。青森は、春作からの播種作業の遅れを引きずり、10日~2週間程度の遅れ。その後の発芽・生育は順調。岐阜は、播種のスタートが若干遅れた分のずれはあるものの、その後の播種は順調。

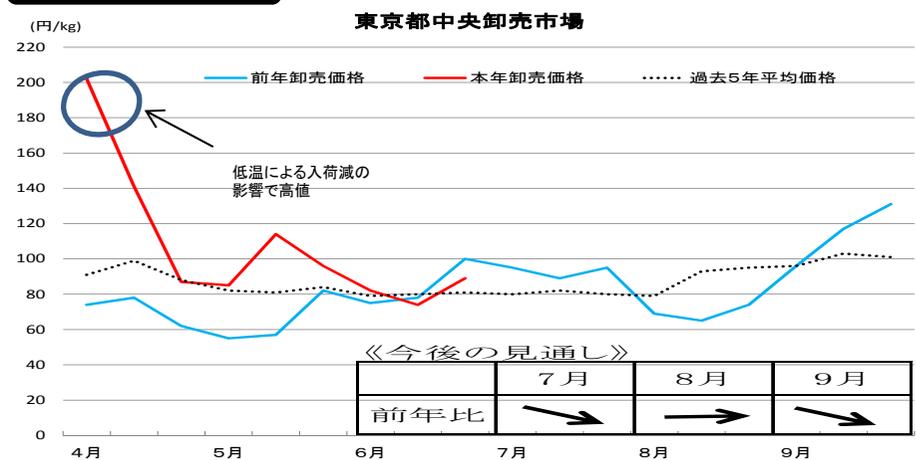
出荷開始は、北海道は6月中旬、青森は7月上旬。

2 この先1か月の気象予報は、平均気温は平年より高く、降水量は平年よりかなり多く、日照時間は平年並みとなる見込み。

入荷量の推移等



価格の推移等



野菜需給・価格情報委員会での需給・価格の見通し

1 供給見通し

作付面積は、北海道及び青森は前年をわずかに下回り、岐阜は前年をやや下回る見込み。

生育状況は、融雪の遅れ等による播種の遅れや干ばつの影響等により、生育に遅れが見られる。一部の産地においては、連作障害も見られ、品質は低下傾向。

出荷量は、7月は前年を上回り、8月は前年を下回り、9月は前年を上回り、全体としては、前年をやや上回り、平年並みの見込み。

2 需要・価格見通し

主産地においては、平年並みの出荷が見込まれるものの、総じて需要が減少する時期であることから、価格は、概ね前年及び平年を下回る見込み。

たまねぎ(7~10月)

主産地の動向等

(主な産地:北海道、佐賀、兵庫)

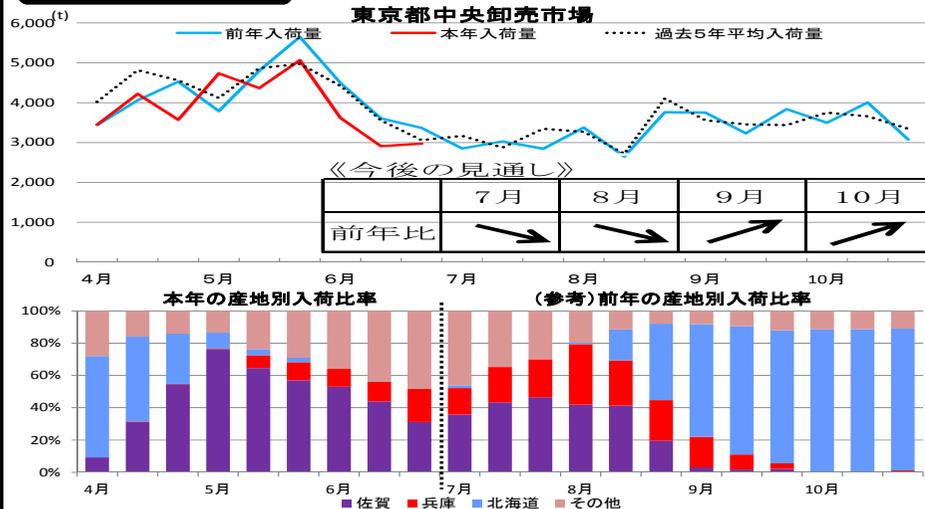
1 作付面積は、北海道は前年比105%(前年の面積は雹害分を除く)、佐賀は同98%、兵庫は同100%。

生育状況は、北海道は、5月中旬から干ばつ傾向となったため、定植時期の違いによって、ほ場間の生育に格差が見られる。佐賀は、降雨により定植が遅れ、定植後の乾燥による活着不良及び低温の影響から、平年より7~10日遅れ、全体の収量は平年比70%程度。兵庫は、定植の遅れと生育期の低温・干ばつから平年より7~10日遅れ、小玉傾向。

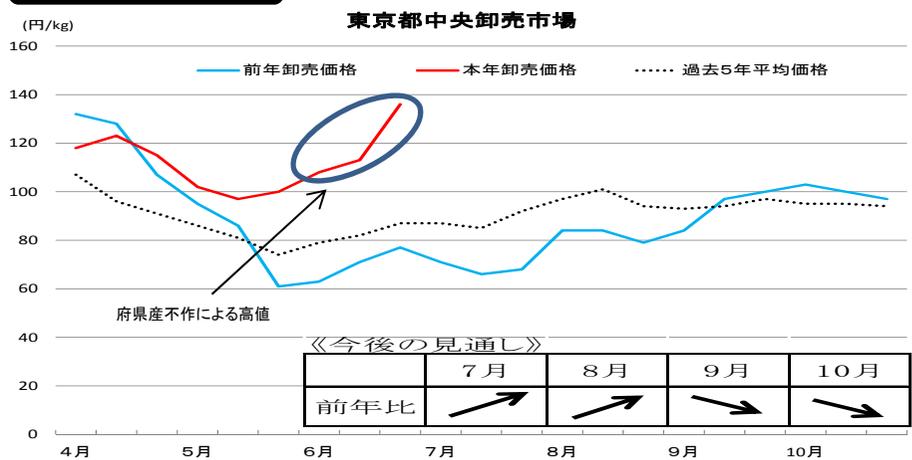
出荷開始は、北海道は8月上旬、佐賀は6月上旬、兵庫は4月下旬。

2 この先1か月の気象予報は、平均気温は平年並み、降水量は平年よりかなり多く、日照時間は平年より多くなる見込み。

入荷量の推移等



価格の推移等



野菜需給・価格情報委員会での需給・価格の見通し

1 供給見通し

作付面積は、北海道及び兵庫は、前年並み、佐賀は前年をわずかに下回る見込み。

生育状況は、佐賀及び兵庫は、降雨による定植の遅れの影響等により生育の遅れが見られ、小玉傾向。北海道は、生育が極めて良好であったが、一部のほ場において、干ばつの影響が見られる。

出荷量は、8月までは前年を下回り、9月以降は前年をかなり上回り、全体としては、前年をかなり上回るものの、平年をかなり下回る見込み。

2 需要・価格見通し

佐賀及び兵庫の出荷が前年を大幅に下回ることから、価格は、8月までは前年を上回ると見込まれるが、9月以降、価格は、前年を下回る見込み。

国産の価格が高くなると、消費者の輸入品への抵抗感が薄れてくる一方で、中国において生産量が減少して輸入価格が上昇し、国産との価格差が縮小すれば、国産の加工・業務用需要が増加する可能性がある。

秋にんじん(8~10月)

主産地の動向等

(主な産地: 北海道、青森)

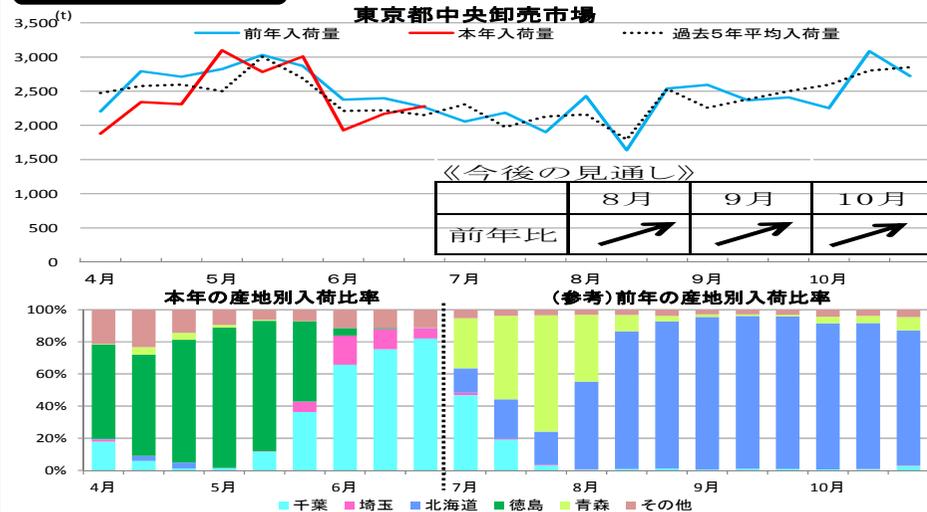
1 作付面積は、北海道は前年比102%、青森は同95%。

生育状況は、北海道は、融雪遅れ、降雨等による播種遅れ、その後の主要産地での干ばつにより、総じて3~5日程度の遅れ。青森は、消雪遅れ、低温により播種作業は1週間から10日程遅れたが、その後の発芽・生育は順調。

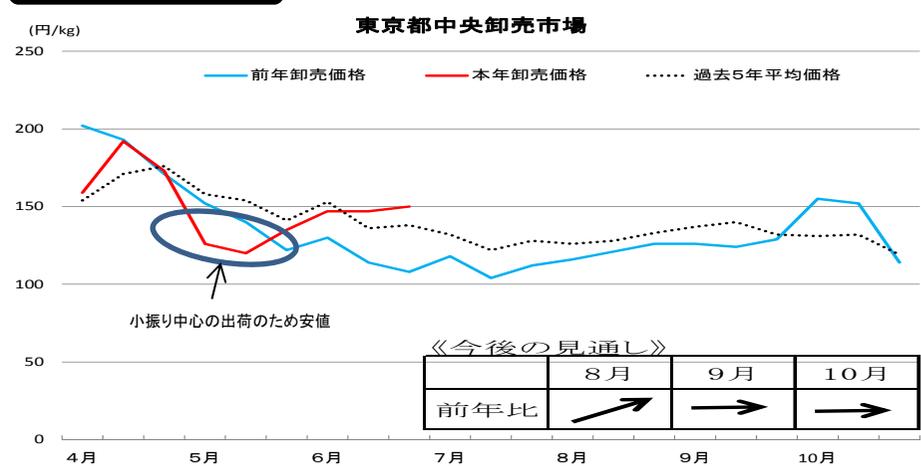
出荷開始は、北海道は7月中旬、青森は6月下旬。

2 この先1か月の気象予報は、平均気温は平年より低く、降水量は平年よりかなり多く、日照時間は平年並みとなる見込み。

入荷量の推移等



価格の推移等



野菜需給・価格情報委員会での需給・価格の見通し

1 供給見通し

作付面積は、北海道は前年をやや上回り、青森は前年をやや下回る見込み。

生育状況は、融雪の遅れや降雨等により播種が遅れたが、その後は生育が回復し、現在は3~5日程度の生育の遅れが見られる。

出荷量は、8月以降、前年及び平年を上回る見込み。

2 需要・価格見通し

出荷が順調と見込まれることから、平年を上回っていた価格は、8月以降平年並みに近づく見込み。

加工・業務用需要は、価格次第で輸入品にシフトするが、中国産が安いことから、北海道産の出荷が本格化するまで、中国産の需要が強い可能性がある。

夏はくさい(7~9月)

主産地の動向等

(主な産地:長野、北海道、群馬)

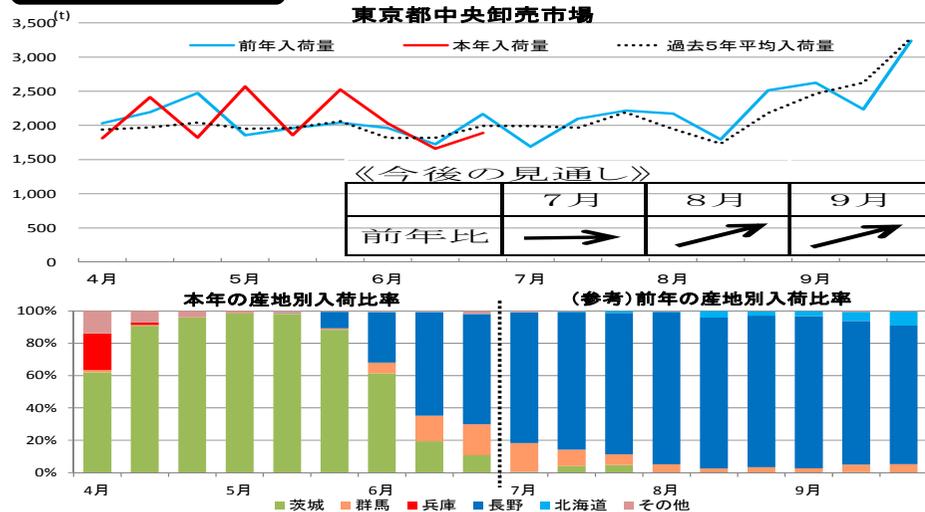
1 作付面積は、長野は前年比101%、北海道は同97%、群馬は同99%。

生育状況は、長野は、順調に生育し、大玉傾向。6月中旬以降は曇天・降雨・低温が続いているが、全体としては緩やかな増加傾向。北海道は、播種・定植は概ね平年並みに推移。群馬は、適雨により約3日程度生育が前進化し、作柄は良好。

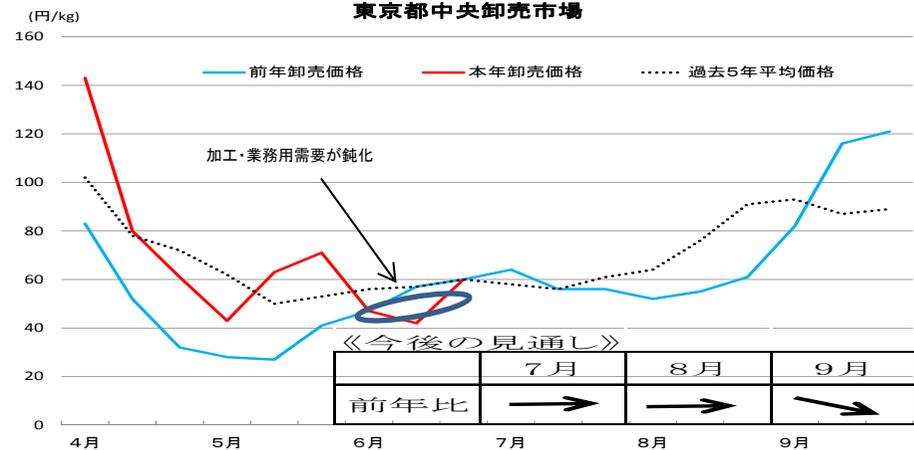
出荷開始は、長野は5月下旬、北海道は7月上旬、群馬は5月下旬。

2 この先1か月の気象予報は、平均気温は平年並み、降水量は平年並み、日照時間は平年並みの見込み。

入荷量の推移等



価格の推移等



野菜需給・価格情報委員会での需給・価格の見通し

1 供給見通し

作付面積は、長野は前年をわずかに上回り、北海道は前年をやや下回り、群馬は前年をわずかに下回り、全体としては、前年並みの見込み。

生育状況は、天候に恵まれ、順調な生育となっている。

出荷量は、7月は長野が作付面積を減少させたことから、前年をやや下回るが、8月以降は前年及び平年を上回る見込み。全体としては、前年及び平年をわずかに上回る見込み。

2 需要・価格見通し

小売店において、1/4等のカット販売を行っているものの、夏場は加工・業務用を含め特に需要が少ないことから、順調な出荷が見込まれる中で、価格は、8月までは前年並みで平年を下回る見込み。9月は前年及び平年を下回る見込み。

夏秋レタス(6~10月)

主産地の動向等

(主な産地:長野、群馬、茨城)

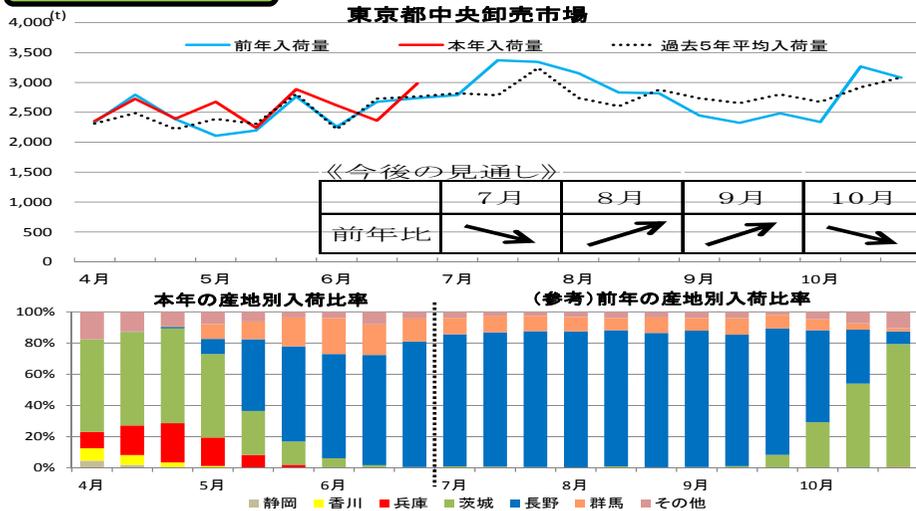
1 作付面積は、長野は前年比102%、群馬と茨城は同100%。

生育状況は、長野は、生育は順調で、6月中旬以降は曇天・降雨・低温が続いているが、全体としては緩やかな増加傾向。群馬は、低温の影響から生育が停滞しているが、作柄は良好。茨城は、8月上旬から播種が開始され、まとまった量の出荷は10月以降。

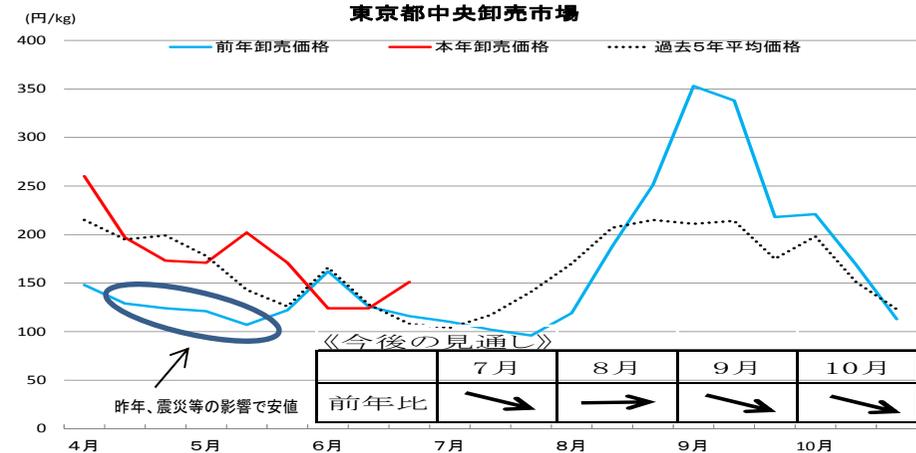
出荷開始は、長野は6月中旬。群馬は4月中旬、茨城は9月下旬。

2 この先1か月の気象予報は、平均気温は平年並み、降水量は平年並み、日照時間は平年並みの見込み。

入荷量の推移等



価格の推移等



野菜需給・価格情報委員会での需給・価格の見通し

1 供給見通し

作付面積は、長野が前年をわずかに上回り、群馬及び茨城は前年並みの見込み。

生育状況は、一部の産地において低温による生育の停滞が見られたが、生育は概ね順調。ただし、天候に左右されやすい品目であることから、天候次第では、生育が大きく変化する可能性がある。

出荷量は、7月及び10月は、出荷が多かった前年を下回るものの、平年を上回って推移する見込み。8月及び9月は前年及び平年を上回って推移する見込み。全体としては、前年及び平年を上回る見込み。

2 需要・価格見通し

平年を上回る出荷が見込まれることから、価格は、概ね前年及び平年を下回って推移する見込み。

加工・業務用においては、レタスに対する根強い需要がある一方で、カット野菜においては、他の野菜と競合する場面も見られる。

その他、夏秋野菜全体の消費の動向等

【景気、天候等の要因による消費動向】

- ・消費は昨年より回復傾向にあるが、景気が低迷している中で、まだまだ低価格指向であり、量目調整を含め、低価格での販売が継続している。
- ・直売所においては、割安に購入できるとの印象があるため、野菜の価格が高くなると業績が良くなる傾向にあり、対前年を超えて好調である。

【震災や原発事故の影響による消費動向】

- ・海外の日本の農産物に対するネガティブなイメージはなくなりつつある。
- ・特定の地域の野菜は、依然として一部の消費者が敬遠する傾向にあるものの、他の産地のものを手当てしつつ、併売している。
- ・学校給食では、安全性は理解しているが、心情的に特定の地域のものが敬遠される傾向が継続している。

【野菜全体の販売状況】

- ・低価格指向に対応して、1/2、1/4カット等、量目を調節して工夫して販売されている。
- ・原発事故に係る意識が少しずつ変わってきているので、あえて「安全」とアピールせず、普通に販売していくことも心がけられている。

【カット野菜について】

- ・量販店では、カット野菜の販売が好調であり、売場面積や品ぞろえを拡大しているところがある。
- ・外食では、店内での野菜の加工処理能力が低下しているところもあり、業務用のカット野菜に対する需要が増加している。
- ・野菜料理用の市販の合わせ調味料と一緒に、材料野菜をカットしたパックを販売し、好評なところもある。

【食育について】

- ・野菜を食べることが体にいいことは、頭で理解しているが、行動が伴っていないことから、市場に調理室を作って若い人に食べてもらう取り組みを行っているところもある。

【今後注目される品目】

- ・機能が注目されているトマトは、そもそも販売の基幹となっている品目なので、多くの品種をそろえて、バラエティに富んだ売場で提供しているところもある。
- ・外食では、彩り豊かなパプリカが安定して使われ、西日本で使われていた青ねぎが東日本でも普及してきている。また、アボカドが注目品目であり、サラダ用等をはじめアボカドに付随して使用する野菜の需要が伸びると考えているところもある。

【その他】

- ・旬の野菜は、おいしくて栄養価も高いため、おいしさや機能性をアピールした売り方を提案したい。そういう意味で福島県産も積極的に販売したいと考えているところもある。
- ・直売に対する意識が高くなり、直売所に出荷している生産者は増加している。
- ・基本食材について、需要の過半を占めている加工・業務用の産地作りを強力に行い、価格が大きくぶれないようにすることが重要である。